

- ◆ 小学校給食の無償化。中学校スクールランチは、全員制給食に転換し無償化へ
- ◆ 月額最大3万円の奨学金返還を支援
- ◆ 高すぎる国保料・介護保険料の引き下げ
- ◆ 敬老パスの利用回数制限の撤廃
- ◆ 補聴器購入助成制度の創設
- ◆ 省エネルギーフォーム支援や太陽光パネル「初期費用ゼロ」設置で再エネ・省エネを推進

入党物語

学生時代に祖母から届いた手紙

私は、岐阜県の山村の農家に生まれました。小学校に入学する前に母が亡くなったので、おばあちゃん子でした。名古屋大学に入学し、日本共産党の学友と知り合うようになった私のところに、祖母から手紙が届きました。

「学生のうちは絶対『赤』に染まらないように。田口家の恥、御霊様に申し訳ありません」

私は、教師を志していました。戦前、子どもたちを戦争に駆り立てる教育が行われた。二度とそんな国にはいけない、と考えていたときに、「アカだ、非国民だ」と弾圧を受けながらも、侵略戦争に反対して命懸けでたたかった党があったことを知りました。こういう党ならけっして国民を裏切らないと思い、日本共産党に入党しました。

これまで市会議員として市民の苦難軽減のためにがんばってこれたのも、日本共産党の一員だからだと思っています。
(田口かずと)

田口かずと PROFILE

1958年岐阜県白川町に生まれる◆名古屋大学文学部卒業◆党名古屋市議団事務局員を経て、97年1月の補選で初当選。現在7期目◆党県委員、党名古屋市議団団長、相生山団地自治会長◆家族は妻



焼きそばの田口学区の盆踊りでは焼きそば担当

あなたの声がスタートライン

市政に届けて26年。



名古屋市会議員

田口かずと

「あなたの声がスタートライン」——7期26年、みなさんの声を名古屋市政にまっすぐ届け、暮らしの願いを実現してきました。河村市政のゆがみを正し、福祉・暮らし最優先の市政を実現するために、日本共産党市議団の団長として先頭に立ってがんばります。



子ども医療費

18歳まで無料化した力で こんどは学校給食費ゼロに

完全無料化は名古屋だけ

子どもの医療費は2022年1月から通院も18歳まで無料になりました。政令指定都市の中で、所得制限や自己負担なしに18歳まで完全無料化したのは名古屋市だけです。田口かずとさんは2019年2月議会の代表質問で、通院医療費も18歳まで無料にするよう求めていました。



2014年6月、河村市長に要請

当初は自・民・公が反対

田口さんが初当選した1990年代後半は、無料化は3歳未満児まででした。市民が「小学校入学前まで無料に」と市議会に請願。でも、自民・民主・公明が反対しました。しかし、大きく広がった市民運動と日本共産党の論戦が他党や市長を動かし、無料化の年齢が順次拡大。一時期導入された所得制限も撤廃させました。こんどは学校給食を無料にします。

消費税減税

インボイス中止



河村市長に「消費税減税を国に求めよ」（2022年6月議会）、「インボイス制度の中止・延期を国に要望せよ」と質問（同年11月議会）。物価高騰から暮らしを守ります。

田口市議「国に求めよ」

市民とともに市政を動かす 日本共産党 田口かずと

敬老パス

乗り換えカウント1回へ こんどは回数制限の撤廃を

市民の宝の敬老パス。JR・私鉄や民間バスでも使えるようになりました。一方で、年間730回の利用回数制限が。田口さんは2020年2月議会の代表質問で撤回を要求。市民の反対運動が広がり、河村市長に「市バス・地下鉄の乗り換えは1回にカウントする」と約束させました。

河村市長は2011年、敬老パスを「事業仕分け」にかけ、「見直し」と判定。一部負担金の値上げを狙いましたが、日本共産党市議団と市民との共同で撤回させました。こんどは利用回数制限を撤廃させます。



市民団体の集会に参加する党市議員

天白溪地区の 道路廃止・公園見直し

天白溪地区の都市計画道路「八事天白溪線」は廃止され、同地区の住宅地のほとんどが東山公園計画から削除されました。天白溪地区の3つの町内会ぐるみの運動の成果です。田口さんは、本会議質問で2度にわたって住民要望の実現を求めました。

